

子どもの本

研究会

【私の一冊】



『ニングル』



倉本聰 著（理論社）

奥田圭

様々なメディアが入り乱れる昨今、パソコンにタブレットに携帯電話にと世の中は情報に溢れている。そして我々はその膨大な情報に囲まれて生きている。ここ20年ほどでこの世の中は、大きく変わった。特に情報通信分野での進化は目を疑うばかりである。我々が子供の頃は、様々な情報を手に入る手段は、新聞や雑誌、書籍、ラジオ、そしてテレビだった。テレビは白黒で、我々の生活の傍には、ポータブルラジオがあった。何をするとともにラジオは良き友達だった。

月日はめぐり、信じられないくらいスピードで、日進月歩で進む科学技術。子どもの頃SF小説や漫画などで見聞きしたテレビ電話や、通話できる時計、壁にかけられたテレビも現実のものになって行った。そう、生活は確かに便利になった。どこにいてもいつだって、瞬時に世界の動向を確認することができるし、いまの世界の街を居間から眺めることも可能になった。買い物はコンビニで24時間できる。それどころか、書齋からネットでも注文した文具や書籍は、翌日にはもう自宅に届くようになったし、現金が必要なときには、ATMでいつでも現金を手に入れることができるようになり、それどころか、ネット上で送金することもスマートフォンでどこからでもいつでもできるようになった。お金はカードになり、端末にかざすだけで「ピッ」と決済できるようにになった。これはまだまだ序の口、これからはもっと便利になる。確かに本当に便利になった。夢のようである。そんな生活を日々享受しながらその度に私は、倉本聰作の『ニングル』という小説を思い出す。

「ニングル」とはアイヌ伝説のコロポックルの末裔とか、林夫の間に伝わるコロポックルとは種族を異にした小さな人間？のことである。つまり、『ニングル』というのは、北海道富良野に伝わる「ニングル伝説」の、ニングルという、まあ、森の妖精のような存在のことを描いた小説なのだ。読み進めていくうちに、本当のことなのか、空想の中のことなのかわからなくなってくる。不思議な立ち位置で物語を読み進めていく自分を見つめる。ニングルは、北の自然に囲まれた森の中で何千年もひっそり暮らしているのだが、ある日とても好奇心旺盛な一人のニングルが人間と出会う、そして恋をする。そこから人間の文明と出会うのである。その代表的なものがテレビだ。

出来れば子どもたちには是非読んでいただきたいので、詳述は避けるが、この小説の中に「知ラン権利」という言葉が出てくる。「知ル権利」と反対に「知らない権利」である。いまの情報社会、好むと好まざるに関わらず、必要不必要にかかわらず、情報は大波のように日々押し寄せてくる。その中には本当は知らなくても良いものがたくさんあるのではないかと思うのだ。知らなければ知らないで、平穩に暮らせるものも、一旦知ってしまったが故に離れられなくなり、もつと知りたくなる。次は、次は、で一体これはどうなった…。果たしてこれは必要なことなのか？我々の生活を窮屈にしているのではないか？そう思えて仕方がないのである。いまの情報社会だからこそ、1985年に書かれたこの本を子どもたちに読んで欲しいのである。便利さには充実感や幸福感がワンパッケージになっているが、便利を知るが故に喪失される人間らしさがあることも、便利を享受する我々は忘れてはならないのだ。『ニングル』はそのことに気づかされる一冊である。



（ネバーランド代表取締役・ラジオパーソナリイ）

2022年度活動のご案内

(2022年4月～2023年3月)



熊本市子どもの本の研究会は4月より39年目の活動を始めます。新型コロナウイルス感染症の拡大が依然として収まらない中、オンライン活動をさらに充実させるとともに、実際に集まってる講座活動も感染防止対策を取った上で開催してまいります。NHK・Eテレの「趣味どきっ! 道草さんぽ」講師の多田多恵子さんをお招きしてのイベントも企画しています。また、隔月(奇数月)で会報「子どもの本」を発行いたします。詳細は以下をご参照ください。

1 講座活動

①開講講座



・4月27日(水) 10時～12時
会場：熊本市立図書館集会室(予定)
講座のご案内と活動についてご紹介します。
今年度も学びを楽しみましょう!

②講師を招いての講座

講師：多田多恵子さん

(NHK「趣味どきっ! 道草さんぽ」講師)

講演日時、場所は決定次第ご案内します。



③企画講座

月1回程度開催。会場は熊本市立図書館(予定)。現在決定している企画講座は以下の通り。

・5月18日(水) 10時～12時

松岡享子さんの作品を楽しむ

児童文学者で東京子ども図書館名誉理事長の故松岡享子さんの数々の作品を持ち寄って、語り、絵本、児童書を楽しみましょう。

・6月15日(水) 10時～12時(製作、

13時～15時(実演)

お話の小道具の製作

カップから飛び出す人形

くわらべうたで遊ぼう!

・8月3日(水) 10時～12時

ボランティア活動のための学習会

13時～15時

子どもたちのおたのしみ会



④閉講講座

・23年3月15日(水) 10時～12時

「おはなし」を楽しみ、今年度の活動について語り合います。

2 オンライン活動

①研究会活動検討会

開催形式：ZOOM会議

検討内容：研究会で実施する具体的活動についての意見交換、新規活動の企画

参加資格：研究会正会員、正会員の紹介があれば非会員も参加可(要事前登録)

第1回 4月10日(日) 10時～12時

第2回 6月12日(日) 10時～12時

第3回 8月21日(日) 10時～12時

第4回 10月16日(日) 10時～12時

第5回 12月11日(日) 10時～12時

第6回 2月12日(日) 10時～12時

②オンライン読書会

21年度の「児童書の古典を読みなおす会」の開催経緯を踏まえ、今年度も実施。

テーマ、スケジュールについては、研究会活動検討会で検討し、会報・ホームページで告知。



3 横田幸子さんを偲ぶ会

・9月11日(日)(時間未定)

21年9月21日に亡くなった前理事長横田幸子さんを偲び、絵本などを持ち寄って思い出話や語りなどをしましょう。



4 ボランティア活動

左記団体からの依頼に基づき、おはなし会を開催

熊本市立図書館、熊本県立図書館

熊本大学教育学部附属支援学校(小・中学部)

熊本支援学校、



6 びわの木文庫の活用

研究会事務所にある「びわの木文庫」の活用を検討

公開日を決めて広報し、地域の児童・保護者の方々に蔵書に触れていただく。

7 年会費(22年4月〜23年3月)

・正会員(個人)・・・4000円
・賛助会員(団体)・・・10000円

ご寄付でのご支援もお待ちしております。

ご入会及びご寄付にあたっては、左記口座宛にお振込み願います。

ゆうちょ銀行

口座番号：0192041211

口座名：熊本子どもの本の研究会



◆理事会開催報告

理事会を左記のとおり開催しました。

①日時：22年3月5日(土) 11時〜11時35分

②場所：研究会事務局+ZOOM会議

③参加者：横田理事長、小川副理事長、鈴木理事、世良理事(他の理事からは委任状を受領)

④議事概要

「21年活動状況報告」と「22年度活動計画」

について横田理事長より説明し、承認を得た。主要コメントは左記のとおり。

・21年度はコロナ禍の中で、よく活動したと思ふ。

・亡くなった横田前理事長を偲んで、9月に子どもの本を楽しむイベントを開催してはどうか。

・世の中にあふれる情報の中から何が真実かを判断する力を養うためには、本から知識を得る習慣は重要。



5 会報・ホームページ

①会報の発行

22年5月、7月、9月、11月、23年1月、3月の6回発行し、ホームページ上で公開。郵送希望の会員の方には郵送いたします。



②ホームページで情報提供

会報及び個別活動に関する情報をタイムリに提供。会員専用の「会員の広場」では、各活動のより詳細な記録を提供



◆理事會開催報告



振込の際、通信欄に以下を記載願います。
①氏名、②メールアドレス、③電話番号、④住所、⑤備考(会報の郵送希望など)
ご質問等あれば、下記宛に願います。
・メール：member(a)kodomonohon.org
(a)を@に変更して宛先としてください

・FAX・・・096-382-5090



(横田真)



◆講座案内

植物生態学の通訳者・多田多恵子さんに会える

安田 晶子（会員）

昨年の東京につづいて北京で冬季オリンピック・パラリンピックが開催され、新聞などで出場する選手の紹介記事を読んだ。それぞれの選手の人柄を知ること、普段スポーツ観戦をしない私でも競技中の姿を見たくなった。

世の中には図鑑が溢れている。私がスポーツ観戦をしないように、植物に興味のない人は図鑑に「萌え」はしないだろうけれども、それぞれの植物のしたたかな生き様には、感動が詰まっている。その生き様を解き明かす仕事（調査研究）をする人は研究者と呼ばれる。

多田多恵子さんは植物生態学の研究者であると同時に「通訳者」である。研究には学術用語という業界用語が使われるうえ、多くの最新情報は英語論文として発表される。先達の膨大な研究結果や最新情報を自分の視点でまとめるのも研究者の仕事である。一方、それらを専門外の人にもわかるように翻訳して紹介する「通訳者」は多くは存在しない。多田さんは稀有な存在だ。



さらに多田さん（子育て経験あり）は子どもへの「通訳」もお得意である。福音館書店のかぐくのとも絵本『びっくりまつぼっくり』や『ハートの はっぱ かたばみ』は、子どもたちを「体験」へと誘ってくれる。これらの本を知ったときの子どもの気持ちは、体験授業的なものではなく、いたずらしたい気持ちに近いと推測する。

まつぼっくりがビックリするなんて、このコトバのセンスも多田さんのすごいところだ。さすが生態学（科学）の「通訳者」。ちいさながくのとも『とげとげおなもみくつつきたーい』、『はっぱはらっぱらはっぱっぱ』もいたずら心を刺激する。そもそも多田さんはいたずら好きなのではないか？

昨年10月からNHK Eテレの「趣味どきっ！道草さんぽ」にご本人が出演されていたので、美貌をご覧になった方も多いかと思う。同時に番組での話し方から「人を驚かせるのが好き」な雰囲気伝わってきた。自分の感動を他の人と共有したいタチに違いない。「見てみて！」とか「ねえ、知ってた？」と。会った相手を元気にする不思議な力をもつ人だ。



その多田多恵子先生に熊本で会える。著書が多いので紹介しきれないが、大人が楽しめるものとして『美しき小さな雑草の花図鑑』、『もつと美しき小さな雑草の花図鑑』（山と溪谷社）をお勧めする。これらの本で植物の「人がら」に触れれば、私がオリ・パラをみようと思った様に、これまで植物に興味のなかった方も植物に会いに外に出たくなるはずだ。

◆報告

子ども食堂でのボランティア活動

貝塚 直子（会員）

昨年、熊本市北区の榎木子ども食堂で、絵本の読み聞かせと音読教室を開催させていただきました。

9月11日（土）と10月9日（土）の2回に分けて活動したのですが、子ども食堂の方々の協力もあり、滞りなく開催することができました。

当日は未就園児とその保護者の方から、小学校中学年ぐらいいまでの子どもたちが参加してくれました。



まずはヘルガ・ガルラー著『まつくろネリノ』や酒井駒子著『リコちゃんのおうち』の読み聞かせを行いました。子どもたちは真剣な眼差しで絵本を見つめますが、特に酒井駒子の絵本には、こちらが驚くほど釘付けになります。

主人公の「りこちゃん」が段ボールの家に引っ越しをし、可愛らしいおもちゃを飾り付けていくのですが、その秘密基地のような家は宝箱のような楽しさと美しさにあふれていて、子どもたちが夢中になるのも分かるような気がしました。

絵本の読み聞かせに続いて、小学生以上を対象に音読を開始しました。題材は平易でリズムの良い「いろは歌」と、抒情的で美しい日本語で書かれた名作、新美南吉の『木の祭り』を選びました。

音読のテキストを配り、私と、もうひとりのボランティアの方が文章を読み上げた後に、子どもたちに音読してもらいました。

子どもたちは普段あまり音読に馴染みがないせいから、最初は少し戸惑った様子でしたが、何度か繰り返すうちに、はきはきとした口調で読み始めました。皆が楽しそうに音読してくれたことが、今日の一番の収穫のように感じまし

た。

音読はその効果や重要性については、あまりまだ世間には認知されていないように思いますが、日本語を声に出して読むことにより、読解力や語彙力などの国語力を向上させる他、記憶力や集中力を高めることが出来るという研究結果もあります。

子どもたちが本を読まなくなったと言われて久しいですが、このような活動を通じて本や音読に少しでも興味を持つてほしいと願っています、



◆2021年度活動報告(概要)

コロナ感染拡大の中ではありますが、今年度より開始したオンライン活動(研究会活動検討会、児童書の古典を読みなおす会)とともに、

感染防止措置を取った上で、講座活動、おはなしボランティア「びわの木」の活動も実施しました。隔月で会報を発行するとともに、ホームページの「会員の広場」では会員限定での情報共有も開始しました。

1 会員数

正会員 81人 賛助会員(団体) 2団体



2 講座活動

場所 熊本市立図書館 / くまもと県民交流館パレア、開催時間帯は午前10時から正午、数字は参加人数

4月21日(水)

「2021年度最初のおはなし会」 11人

7月7日(水) 「七夕おはなし会」 13人

10月6日(水) 「本の持ち寄りパーティー」 7人

10月20日(水)

「ナンセンス絵本を味わう」 6人

11月17日(水)

「いきる力を、いつ、どのように獲得

するのか」 9人

12月8日(水)

「昔話のおもしろさーくり返し」 7人

3 研究会活動検討会

オンライン(ZOOM)で開催

開催時間帯は午前10時から正午

日付の後の数字は参加人数

第1回 4月11日(日) 7人

第2回 6月13日(日) 7人

第3回 8月22日(日) 7人



- 第4回 10月10日(日) 3人
- 第5回 12月12日(日) 3人
- 第6回 2月13日(日) 6人

4 児童書の古典を読みなおす会

ZOOM会議、参加人数

8月1日(日) 10時～12時

「ナルニア国物語」4人

10月3日(日) 10時～12時

横田幸子前理事長を偲ぶ「モモ」5人

5 おはなしボランティア「びわの木」

7月19日(月) (リモート開催)

熊大教育学部付属特別支援学校 中学部

9月27日(月) (リモート開催)

熊大教育学部付属特別支援学校 中学部

11月4日(水) 県立図書館

水曜おはなしの時間 (0歳児対象)

11月17日(水)

熊本支援学校 1・2・4・5学年

11月27日(土)

県立図書館土曜お話会

12月11日(水)

県立図書館水曜おはなしの時間



12月13日(月)

熊大教育学部付属特別支援学校 中学部

12月23日(木)

熊大教育学部付属特別支援学校 小学部

1月6日(水) 県立図書館

水曜おはなしの時間 (0歳児対象)

6 会報「子どもの本」の発行・ホームページ

①会報「子どもの本」

第433号 (21年5月23日発行)

第434号 (21年7月18日発行)

第435号 (21年9月19日発行)

第436号 (21年11月23日発行)

第437号 (21年1月16日発行)

第438号 (22年3月21日発行)

②講座の開催案内、開催中止等の連絡

③会員専用ページ「会員の広場」 研究会活動

検討会の詳細議事録の共有など

◆報告

第6回研究会活動検討会

2月13日10時～12時 ZOOM会議

参加者…6人

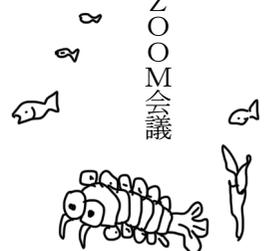
1. 今年度の活動報告

・コロナ感染拡大の中、開催中止も多かったが、講座活動はこれまでに6回開催することができた。お話ボランティアも熊本支援学校、熊大教育学部付属特別支援学校、県立図書館などにおいて対面で開催することができた。オンラインの活動も研究会活動検討会を6回、児童書の古典を読みなおす会を2回開催できた。全体として、それなりに活動ができたと感じている。

・講座活動はそれなりに開催できたが、やはりコロナに振り回された感じ。

・講座に参加すると発言しなければならぬの思いから、参加の敷居を高く感じている方もいらつしやる。話を聞くだけでも参加していただければと思う。

・講座は平日(水曜日)の午前中なので、仕事を持っていると参加できない。参加できる人が固定されており、若い人の参加も増えていな



い。

- ・会報発行日も早めに決めてもらえると、会報發送作業に参加しやすくなる。これまで活動に参加できていない会員にとっては、土日にいう会報發送作業への参加が講座活動などへの参加のきっかけになるのではないかと感じている。

- ・オンラインでの活動は時間的制約がある様々な人が参加するきっかけとしては良いと感じている。

- ・コロナが落ち着いたらびわの木文庫の活用も検討してみたい。

2. 来年度の活動計画案



- ・講座活動（月1回ペース）、オンラインの研究会活動検討会（年6回）、多田多恵子さんを囲んでのイベント（6月頃開催）、横田幸子前理事長を偲ぶ会（9月頃開催）、ボランティア活動（要請に応じて開催）などを考えている。
- ・講座活動の7月以降については、決まり次第順次広報することとした。

- ・先日小学校の図書館を訪問したが、司書の方は貸出作業に忙殺されており、昼休みの短い時間に多数の児童が来館する状況の中では十分な読書相談は難しいかもしれないと感じた。

小学校や中学校の図書館で読書相談対応をするような活動を検討してみてもどうか。

- ・読書相談をしてくれる方がいると良いかもしれないが、最近はコロナ禍などで、小学校、中学校に外部の人が来訪するにあたって留意しなければならぬことが多くなっている。

- ・びわの木文庫の公開日を決めて、そこに来てくれた児童に読書相談をするということを考えてはどうか。月に1度でも公開日を決めてアナウンスし、まずは保護者同伴で来てもらうことから始めると、保護者も安心するのではないかと。自治会協議会に案内するのも一案
- ・びわの木文庫には、大人も楽しめる本もあるので、子どもだけでなく、大人にもきてもらうと良い。

- ・今年度開催した児童書の古典を読みなおす会のようなオンライン読書会を来年度も企画したほうが良い。子どもの本であれば、どのような本を対象にするのが良いのかを子ども自身から聞いてみるべき。4月の研究会活動検討会に、本好きの児童に保護者と一緒に参加してもらって意見を聞いてみてはどうか。

3. その他

3月上旬に開催予定の理事会関連の段取り、3月下旬に発行予定の第438号会報の構成について相談した。



（横田 真）

◆会報担当の1年を振り返って

池田 恵美（公員）

1年間、巻頭の「私の一冊」担当として携わらせていただきました。毎回ご寄稿下さる方の思いに心を打たれ、ご紹介頂く書籍に新しい世界を見せていただき、大変貴重な経験をさせていただきました。中でも印象に残っているのは、ラジオパーソナリティの塚原まきこ氏が紹介された『わたしはあかねこ』（サトシン・作、西村敏雄・絵、文溪堂）です。すぐに図書館で借り、帰宅後、表紙のあかねこに誘われるように子どもと一緒に読みました。親と子それぞれの視点で味わえる、深く温かい絵本でした。親子で感動を共有する素晴らしい時間を持つことができました。

日常に新たな風を吹き込む「私の一冊」。携わらせていただいたことに心より感謝申し上げます。

4月～5月の講座・会合の案内

○第1回研究会活動検討会（オンライン）

・日時 4月10日（日） 10時～12時

研究会活動の企画や意見交換をします。参加希望の方は左記メールアドレス宛に4月8日までに申し込みください。

メール zoom(a)kodomonohon.org

（㊟）を㊟に変えてアドレスにして下さい）

○開講講座

・日時 4月27日（水） 10時～12時

・会場 熊本市立図書館集会所（予定）

講座のご案内と活動についてご紹介します。今年度も学びを楽しみましょう！

○松岡享子さんの作品を楽しむ

・日時 5月18日（水） 10時～12時

・会場 熊本市立図書館集会所

故松岡享子さんの数々の作品を持ち寄って語り、絵本、児童書を楽しみましょう

★参加には事前申し込みが必要です。講座名、参加者のお名前、連絡先を明記の上、メールかFAXでお申し込みください。場所、スケジュールについて、お越しになる前に必ずホームページでも確認ください。

メール kouza(a)kodomonohon.org

FAX 096-382-5090

本はともだち！



昨年11月から今年の2月にかけては、ナオミ・ノヴィクにはまっていた。中野区中央図書館のジュブナイルの棚で『ドラゴンの塔』

（上・下）を見つけたのをきっかけに、彼女の

デビュー作である『テメレア戦記』シリーズ（邦訳6巻）、『銀をつむぐ者』（全2巻）、『闇の魔法学校 死のエデュケーション』と11冊を立て続けに読んでしまいました。著者はユダヤ系

アメリカ人で、子どもの頃に母親の母国ポーランドの民話をよく聞かされて育ったとのこと

で、『ドラゴンの塔』と『銀をつむぐ者』は、魔法が存在する中世東欧的社会を舞台にしています。『ドラゴンの塔』は、領主である魔法

使いに召し出された17歳の女の子の魔法修行から始まります。『銀をつむぐ者』では、金貸

し、農家、領主の娘たちが主人公です。これらのハイティーンの女の子たちは、押し付けられ

た役割や環境の下で、学び、闘い、めちやくちや不満をぶちまけながらも、自分が正しいと感じる道

を追い求めていきます。その若者達の無鉄砲な行動が、矛盾を抱え、大人達がどうしたらよいか

かわらなくなっている社会体制に一定の方向性を示す結果になるところに爽快感

があります。現在の社会において、今、まさに求められていることなのかもしれないながら読み進めてい

ました。『テメレア戦記』はナポレオン戦争の時代を舞台にした人語を話す中国系の高貴なドラゴン（テメレア）とそのパートナーの英軍将官ローレンスの冒険談です。飛行機の代わりに様々な種類のドラゴンと彼らに搭乗した人々（女性キャプテンしか受け入れないドラゴン種もあり）により空軍が構成されているという設定だけでも面白いのですが、このドラゴン達が人語を話し、教養・知能も有していることから、ドラゴンの待遇改善、人とドラゴンの共生などの社会的課題についても話が広がっていきます。舞台も欧州にとどまらず、中国、トルコ、アフリカ、オーストラリアとグローバルです。シリーズ（全9巻で既に完結）の7巻以降の邦訳の目途が最近になって立ち、今年末頃から順次出版されるとのこと。楽しみです。（横田 真）

編集 金子・池田・上林・横田・イラスト 安田

特定非営利活動法人

熊本市子どもの本の研究会 発行

〒861-8029

熊本市東区 西原1丁目15の24

f a x 096 (382) 5090

